



# ななサボ

越谷市市民活動支援センターでは7つのサポート(ななサポ)を行っています。

発行:越谷市市民活動支援センター 住所:埼玉県越谷市弥生町16-1越谷ツインシティBシティ4階、5階 URL:<http://koshigaya-activity-support.info/>  
Eメール:info@koshigaya-activity-support.info 市民活動支援センター:TEL.048-969-2750 FAX.048-969-2751 中央図書室:TEL.048-969-1800  
利用時間:午前9時~午後9時30分(図書室午前9時30分~) 休所日:年末年始(図書室のみ休室日別途有)



## －特集－

# つくる、つながる。



「市民活動とは、市民が中心となって行う公益的な活動」こう聞くと、とても難しいことのように感じたり、自分とは関係のない人たちの活動と思われる方もいるかもしれません。確かに、市民活動の中には専門的な知識や技術が必要なことや、社会の課題を解決する過程においての大変さもありますが、それでも多くの人が市民活動に参加しているのは、そこに「やりがい」や「楽しさ」を感じているからなのではないかと思います。

仲間を増やし、活動を継続するための大切なくツールともいえる「やりがい」と「楽しさ」。今号では、作る楽しみを通して、「公益的な活動を行っている」「共感の輪を広げている」市民活動団体の皆さんを紹介します。

視覚障がいには、「見えない」だけではなく「見えにくい」という状態も含まれているということを「存じでしょ?」例えば「視野が欠けている」「眼鏡をかけても見えづらい」など、全盲でなくても白杖を持つ方がいらっしゃることは意外と知られています。



## ゆかたの花

NPO法人 視覚障がい者支援協会ひかりの森

NPO法人 視覚障がい者支援協会ひかりの森（以下、ひかりの森）は、2009年の設立以来、施設運営・相談・サポートDVDの制作など、さまざまなアプローチで視覚障がいのある人への支援や、障がいへの理解を深める活動を行ってきました。越谷駅東口から徒歩3分の山崎ビル2階にあるひかりの森の事業所では、曜日ごとに、自立やQOL（Quality of Life 生活の質）の向上を目的とした活動プログラムが組まれています。

取材に伺ったのは「ゆかたの花」を作る手芸教室の日。多く

の川が流れる越谷では、かつては浴衣地や手拭いの染色が盛んに行われていましたが、和服を着る人が少なくなるにつれて生産量は減っていきました。そこで、浴衣を着る機会が少なくなった現代でも、浴衣地を活用す



「ゆかたの花」を作る様子

◆募集中:ひかりの森では一緒に「ゆかたの花」作りに参加して下さるボランティアを募集しています。

UD FONT

機関紙ななサボでは、見やすい読みやすいユニバーサルデザインフォントを一部使用しています。

(有限会社中野形染工場)が「ゆかたの花」を考案。この「ゆかたの花」に触れて感動したひかりの森代表 松田和子さんと中野さんの出会いがきっかけで始まった手芸教室は、今年で7年目を迎えます。

たる存在感があり、インテリアとして和洋どちらの空間にも合いそうです。ハンドメイドならではのあたかさも魅力のひとつと言えるでしょう。

（有限会社中野形染工場）が「ゆかたの花」を考案。この「ゆかたの花」に触れて感動したひかりの森代表 松田和子さんと中野さんの出会いがきっかけで始まった手芸教室は、今年で7年目を迎えます。

たる存在感があり、インテリアとして和洋どちらの空間にも合いそうです。ハンドメイドならではのあたかさも魅力のひとつと言えるでしょう。

## 中央図書室より所蔵本のご案内

### 親子カフェのつくりかた

小山 訓久 編著 出版社 学芸出版社

近年、地域の居場所として増え続ける親子カフェ。普通のカフェとは異なり、子育ての拠点としてのノウハウも必要なため、経営に苦労することも多いそうです。親子カフェを「サードプレイス」と位置付け、経営的にも成功させている著者が、地域に支持される親子カフェのつくりかたと運営方法を優しく解説しています。

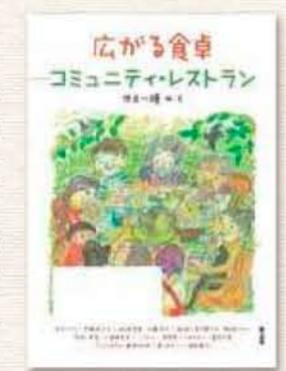
成功する「居場所」づくりのコツとして、マクロビランチの提供などもあげられています。これから親子カフェ、子育て支援の場所を作つてみたいという方にお勧めの一冊です。

### 広がる食卓 コミュニティ・レストラン

世古 一穂 編著 出版社 梨の木舎

「コミュニティ・レストラン」のコンセプトは「おいしく食べて、楽しく働く、くつろぎの場」です。また、機能としては人材養成機能や、生活支援センター機能、自立生活支援機能、コミュニティセンター機能、食育や循環型のまちづくり機能など多岐にわたっています。

この本の中では、モデルとなるコミュニティ・レストランをあげるほか、地域に広がるコミュニティ・レストランとして、北海道から九州まで様々なお店の事例をあげています。まるでガイドブックを読んでいるような優しいイラストが添えられており、ぜひ足を運んでみたくなる本です。



多くの人に「ゆかたの花」を知つてもらい、そして、「ゆかたの花」を通して「見えにくい人たち」のことを知ってほしい」という思いに変わりはありません。より多くの人に手に取つてもらえるように、ひかりの森の手芸教室の皆さんは、日々、楽しみながら努力を重ねています。

### ゆかたの花 は、ここで買えます。

NPO法人視覚障がい者支援協会 ひかりの森  
越谷市弥生町1-9 山崎ビル2階

フリースペースこしがや絵本館  
越谷市赤山町1-42-9  
TEL 048-966-1002

**Information**  
★「ひかりの森ワーカーズ」で制作している点字名刺をぜひ作ってみませんか!

視覚に障がいのある当事者とボランティアやスタッフが協力して製作する「ゆかたの花」作りは、リハビリや手芸教室を超えた楽しさがあると、ひかりの森のスタッフの有田由美さんは言います。確かに、おしゃべりを交わしながらのひと時は、まるで女子会のようです。

「見えにくさ」への配慮もこの手芸教室ならではです。花の材料となる浴衣地と、下敷きの紙の色のコントラストをはっきりさせることで、見えにくい人でも作りやすいよう、素材と環境にも工夫がなされています。この日作られたいた鮮やかなブルーや浴衣の柄が入ったバラの花は、生花とは違つゝを重ねています。



●浴衣地を手に指導する講師の中野さん

松田さんは「ひかりの森が中野さんの伝統を継承して広めていくたい」といいます。実は、この教室を始めた頃は日本の伝統である浴衣地で作った「ゆかたの花」を、東京オリンピック・パラリンピックの選手に渡すことを目標としていたそうです。開催を目前にした今、実現は難しそうですが、

生けられた花を見かけたことはないでしょうか。長年にわたり、華道協会のメンバーと交代で、こしがや能楽堂や中央市民会館、新越谷駅を訪れた人を和ませるために、美育ボランティアこしがやの鈴木八合子さんは、生け花歴30年以上を誇る大ベテランです。生け花にはさまざまな流派があります。鈴木さんは言います。

鈴木さんは、生け花歴30年以上を誇る大ベテランです。生け花にはさまざまな流派があります。

鈴木さんは、生け花歴30年以上を誇る大ベテランです。生け花にはさまざまな流派があります。

鈴木さんは、生け花歴30年以上を誇る大ベテランです。生け花にはさまざまな流派があります。

鈴木さんは、生け花歴30年以上を誇る大ベテランです。生け花にはさまざまな流派があります。

鈴木さんは、生け花歴30年以上を誇る大ベテランです。生け花にはさまざまな流派があります。

## リサイクル花器

### 美育ボランティアこしがや

アコシガヤでは

リサイクル花器

づくりを広めて

います。生け花と

いうと敷居が高く感じ

てしまいますが、身近な材料で

作るリサイクル花器なら誰でも

やりやすいだろうと考えてのこ

とでした。

ベースとなるリサイクル花器の材料は空き缶と割りばしだけ。これにさまざまな工夫を凝らした装飾を施することで、自分だけの花器を作つて楽しむことができます。ひな祭りには和紙を使つたり、父の日には折り紙でネクタイをつけてみたり、イベントによって装飾を変えることで、世界に一つだけの自由に着せ替えができる花器になるのです。このリサイクル花器作りの講習会は婦人会でも予約ができるほどの人気の講習会なのだとあります。また、越谷市市民活動支援センターが主催した越谷駅前塾や、毎年9月に行つているななサポまつりでも好評を博しました。

鈴木さんは「最近はフラワー

アレンジメントの台頭で、華道

の生徒の人口や文化祭への出品もどんどん減つてきているんだ

と感じられるようなボランティ

ア精神をたくさん的人に培つてもらいたい。殺伐とした世の中ですが、せめて美しい一輪のお花や絵を見て心を和ませてほしいです」と、穏やかな表情で鈴木さんはお話ししてくださいました。



●鈴木さんによる生け花

藍染めの技法のひとつである「籠染め」が行われていました。籠染めをきっかけに藍染めに関心を持った越谷で無農薬野菜を栽培している松島さんとライターの藤田さんは、「藍染めで越谷に人を呼びたい」とふしぎぼつけを作りたいとふしぎぼつけの技術を継承していくことを希望しています。活動に協力し、2020年4月にTシャツの藍染め体験を開くことになりました。「藍染めは子どもから大人まで誰でも楽しめる模様ができる楽しさを知つてほしいです。また、藍染めの技術を継承していくことを希望しています」と代表の岩井さんは話します。



●講習会の様子



●自分の手でものを作る

自分が好きだという岩井さん。今では、越谷で育つもので藍染めをしたいと、自宅で染料の元になる藍草を育てています。種を撒き、葉を摘み、もみだした色で染める「生葉染め」は粉の染料よりも淡い色に染め上がります。模様を想像することや色の違いを楽しむこと、そして、互いにどのような模様になるかななど話をしながら作業する時間はかけがえのないものだと、ふしぎぼつけのみなさんは声をそろえて

深い藍色を身に着けていると、どことなく心が落ち着く気がします。藍染めを楽しむだけではなく、多くの人に知つてもらおうと奮闘するふしぎぼつけの活動に参加してみませんか。



代表の鈴木八合子さん

